

令和 3年 9月吉日

日本循環器学会専門医研修施設 同研修協力施設
施設代表者 殿

一般社団法人日本循環器学会
代表理事 平田 健一
一般社団法人日本循環器学会 基本法・5カ年計画検討委員会
委員長 前村 浩二

心不全施設調査ご協力のお願い

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
（FA-10 循環器病の再発、重症化、QOL 低下予防に資する手法の確立のための研究）
「Value-based medicine の推進に向けた 循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究」

平素は日本循環器学会業務に多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。循環器病対策推進基本計画が策定され、現在循環器病対策に資するための厚生労働省科学研究費事業がいくつか行われております。この度上記研究代表者 国立循環器病研究センター病院長飯原弘二先生より上記研究に付随したアンケート形式の施設調査を実施したい旨、ご相談があり、日循として協力をしていくこととなりました。循環器病の再発や重症化予防のための連携したサービスを提供可能な社会の実現を目指す研究であり、日循が進めている脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画の中の医療体制の充実と密接に関連しております。

日々の診療が大変お忙しい中、度重なるご依頼で恐縮ではございますが、協力依頼のメールが届きました際には何卒ご協力をお願いしたいと存じます。尚、調査はウェブ上でアンケートにご回答いただくもので、info@j-aspect.jpのメールアドレスより依頼させていただく予定でございます。

研究の概要

Value-based medicineの推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究

目的

- 脳卒中・心不全の多面的予後評価、疾患管理の実態を、施設調査で把握
- Value-based medicineの推進を見据えた、縦断的な多面的疾患管理システムを整備
- 脳卒中・心不全の重症化、再発に関する因子を抽出しうる解析基盤を創出

方法

- 脳卒中・心不全の多面的予後評価、多職種連携による多面的疾患管理に関する施設調査
- 縦断的なePROs収集と疾患管理システムを統合したintegrated PHR (iPHR)の開発と実施
- iPHRと既存の急性期医療情報、介護情報(モデル地域のみ)の連結
- 再発、重症化、QOL低下に関する因子の解析

期待される効果

- 循環器病対策推進基本計画において取り組むべき施策に資する研究
- 脳卒中・心不全の多面的予後評価、多職種連携による多面的疾患管理の均質化に向けた課題抽出
- 患者、介助者が主体となり、QOL評価と多面的疾患管理を行う全国統一システムの構築と運用
- 急性期から慢性期・介護まで、iPHRを活用したセルフケア、疾患管理を行い、重症化、再発を予防

A. 脳卒中・心不全に対する多面的管理に関する施設調査(令和3年度)

対象: 診療科の統一方針について、日本脳卒中学会、日本循環器学会等研修病院(662、1018施設)、回復期リハビリテーション病棟協会の実態調査参加病棟(1445施設)を対象に、下記項目の実施と内容について調査

1) 生命予後評価

- ① 脳卒中: ASTRAL, THRIVE等、から選択
- ② 心不全: 左室駆出率、BNP、心エコー所見、検査値、予後リスクスコア(SEATTLE等)、から選択

2) QOL維持のための多面的予後評価

- ① 脳卒中: 転倒、アパシー、嚥下障害、脳卒中後てんかん、認知機能(FADEP)
- ② 心不全: Multidimensional Prognostic Index [MPI]の各項目、ADL、認知機能、併存疾患、栄養状態、内服薬数、ソーシャルサポート等、から選択

3) 多職種連携*による疾病管理

MPI各項目における多職種の関与

4) Early Supported Discharge (早期の在宅リハビリテーションへの移行)の実施

*地域のかかりつけ医と多職種のための心不全診療ガイドブック

地域のかかりつけ医と多職種のための心不全診療ガイドブック

日本脳卒中学会 日本循環器学会 回復期リハビリテーション病棟協会